

介護老人保健施設しおん

症 例 概 要 利用者：80代 女性 要介護5

利用期間：R6年4月入所～現在利用中

令和5年11月に腸炎でA病院入院後に腰痛の訴えあり、化膿性脊柱炎との診断、手術予定であったが保存的加療となる。現在のADLでの自宅復帰は難しいためリハビリ目的で当施設入所となる。

内 容

腸炎で入院後、腰痛の訴えがあった。化膿性脊柱炎との診断があり、手術予定であったが保存的加療となり自宅復帰を目指す為、リハビリ目的で入所される。

入所当初は「話す人もいないし、部屋にいた方がいい」と食事時以外は居室でベッドに臥床することが多く、テレビを観て一人で過ごされたりと活気がない状態が続いた。リハビリに対しても意欲的ではない様子があり、「足が痛い」「腰が痛い」という発語が多く聞かれ、時には拒否があることもあった。そんな中でもお話好きということがあり、職員が積極的にコミュニケーションをとることで日に日にご本人と話す機会が増えていった。中でも食べることが好きということもあり「朝に梅干しが食べたい」といった要望に応えたりと、少しずつ信頼関係の構築を図ることができていった。

入所時からご家族の面会が頻回であったが、ある日面会を終えると「家さ帰って子ども達や孫達とご飯食べてわいわい騒ぎたいな」と本音をこぼされる。入居者さんの本気の思いに応えようとケアマネジャーを中心に他職種で相談し、ご自宅に外泊することを目標とする。そのことをお伝えすると「できるかなあ」と言葉では控えめであったが、嬉しそうな表情がみてとれた。

目的がはっきりとしてからリハビリに取り組む姿勢に変化がみられた。ユニット職員を見つけては「今日はリハビリはあるのかな」と言ったご様子や、以前と違い身体の痛みを訴えることが少なくなりましたよとリハビリ職員から話を聞くことが増えていった。また入居者さんから「家でもやっていたから」と自発的に新聞の広告でゴミ箱を折ったりと意欲的な様子がみられた。

外泊に向けて順調だったが、8月にベッドから転落する事故があり一時的に気落ちすることもあった。しかし、ご家族や職員の励ましに応えその後もリハビリに取り組んでいった。

10月末。ついにご自宅に外泊することができた。車椅子で過ごすご自宅に初めは戸惑いもあったようだが「やっぱり家はいいいね」と楽しく過ごしていたと、ご家族より話があった。また、外泊できたことを大好きなケーキでお祝いしてもらえたようで、施設に戻ってきた際には「孫やひ孫も来て楽しかったよ」と笑顔で職員に教えてくださりました。ご自宅でご家族と楽しく過ごしたいという要望に応えることができた。

11月末にも外泊しており、今後も定期的に外泊を続けていく予定だ。

今回はADLの低下から意欲が低下した入居者さんに、目標を持っていただきチームで関わることで最大限の意欲を引き出すことができた。これからも入居者さんの笑顔に繋がる支援ができるように取り組んでいきたい。